

令和6年度 司書講習 講義概要(シラバス)

生涯学習概論

講師

にしむら みとし
西村 美東士

講義概要・授業計画

私の研究成果については、ホームページ (<http://mito3.jp>) で公表しているので、講義中、どんなことでも、質問してほしい。

さて、図書館は言うまでもなく市民の生涯学習の一拠点である。ただし本講義では、他の科目で扱うであろう個人学習支援の側面を除いて、集会事業、相談事業、団体支援、子育て支援、まちづくり、図書館ボランティア育成、職員養成などの図書館による生涯学習関連事業を扱う。

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年中教審答申)では、「学校との連携の強化や、商工労働部局や健康福祉部局等とも連携した個人のスキルアップや就業等の支援、地域課題の解決や地域の先駆的・主体的な取組の支援に資するレファレンス機能の充実など、地域住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割の強化」「まちづくりの中核となる地域住民の交流の拠点としての機能の強化」など、「地域住民の情報拠点、交流拠点」としての図書館の機能強化が期待されている。

本講義での具体的な項目としては、次のような問題意識に基づいて検討を進める。その方法としては、自己内対話で、受講仲間とのワークで、そして講師との双方向の対話で明らかにしていく。その要点は「出会いと交流」である。

- (1) 生涯学習・生涯教育とは何か。人々はどのように何を学んでいるか。
- (2) 家庭教育・学校教育によって、人はどのように傷つけられているか。教育はどうすればよいのか。
- (3) 今日の生涯学習振興施策には、何が欠けているか。
- (4) 今日の時代に、教育・社会教育は何ができるのか。
- (5) 社会教育行政はどのように運営されるべきか。
- (6) 自治体の行財政制度と教育関連法規は、人々の生涯学習活動をどう援助しているのか。(市立図書館基本計画の事例を含む)
- (7) 多様な社会教育の内容・方法・形態の実態と公共的意義は何か。
- (8) 学習情報の提供と学習相談のポイントは何か。
- (9) 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携はどうあればよいのか。(市立図書館を事例として)
- (10) 社会教育指導者の役割は何か。(クドバス=図書館職員に求められる必要能力(専門別)を構造化する)

アドバイス

講義を聴いたり、ワークショップをしたりしながら、各テーマに基づくワークシートを作成する。そのことにより、自己内対話、対他者対話による主体的で深い学びを目指してほしい。あなたの意見や疑問は、双方向システムによって、講義で紹介し、コメントする。

図書館概論

講師

あかやま
赤山 みほ

講義概要・授業計画

図書館とは何かについて概説し、これからの図書館の在り方を考える。具体的には、図書館の機能、現状、社会的意義、図書館員の役割、館種別図書館と利用者、図書館の課題と展望等について学ぶ。学修目標としては、図書館に関する基本的な知識を習得し、社会における図書館の位置づけを理解し、今後の図書館のあり方を展望するための考え方を身につけることを目指す。

1. 図書館とは何か
2. 図書館の構成要素と機能
3. 図書館の現状と動向
4. 図書館の社会的意義
5. 図書館の理念
6. 地域社会と図書館
7. 図書館員の役割
8. 公立図書館の役割と利用者のニーズ
9. 大学図書館の役割と利用者のニーズ
10. 学校図書館の役割と利用者のニーズ
11. 国立図書館の役割と利用者のニーズ
12. 出版と図書館
13. 図書館サービスおよび図書館協力
14. 図書館の課題と展望
15. まとめ

教科書

今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第5版』(樹村房、2024)

アドバイス

身近な図書館が実施している各種サービス、図書館に関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、図書館の理念や関連法規を参照しながら自分の意見を検討できるよう、日頃から情報収集しましょう。

講義概要・授業計画 図書館サービスを円滑に進める上で必要な組織運営にかかわる関連法規、自治体組織における政策的な位置づけ、図書館経営の考え方、職員、施設、予算等の運営資源の確保、サービス計画の実施と評価について学び、社会教育施設としての公共図書館の運営に必要な知識の習得と諸問題の理解を目的とします。

1. 図書館経営の考え方
2. 図書館サービスと関連法規
3. 組織と職員
4. 施設・設備管理
5. 図書館の財務
6. サービス計画と予算
7. 図書館業務・サービスの評価

教科書 糸賀雅児・葉袋秀樹 編著『図書館制度・経営論』（現代図書館情報学シリーズ 2）（樹村房、2013）

参考書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第5版』（樹村房、2024）

アドバイス 図書館は、貸出やレファレンス、児童サービスや健康情報サービスといった企画立案型の各種サービスを提供しています。図書館にかかわる制度の理解と経営学的視点を身に付けることは、こうした実務やサービスを形にして動かしていくうえで欠かせないノウハウです。目的を達成するための実践力の一つとして、興味を持って参加してください。

情報処理技術概論

講師

わたなべ みのる
田邊 稔

講義概要・授業計画 図書館システムの導入・運用や図書館業務支援に必要な情報処理技術について講義する。前半は、最初に図書館を取り巻く情報処理技術や図書館システムの最新動向について、続いてハードウェアとソフトウェア、OSとミドルウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズムなど情報処理技術の基盤となる仕組みについて概説する。後半は、図書館業務システム、検索サービス、ウェブサービス、セキュリティ、マネジメント等について、実際に私が携わってきたシステムを紹介しつつ詳説する。さらに、加速度的に進化しつつある生成 AI（ChatGPT 等）やメタバース等の先端テクノロジーにも言及する。情報プロフェッショナル（インフォプロ）として、これからの図書館員に必要なとされる情報処理技術や IT スキルとは何かにフォーカスする。講義内容を以下に示す。

前半：

1. 図書館を取り巻く情報処理技術や図書館システムの最新動向
2. ハードウェアとソフトウェア
3. OSとミドルウェア
4. ネットワーク
5. データベース
6. アルゴリズムとプログラミング
7. クラウドインフラ
8. アプリケーションプログラミングインタフェース（API）
9. コンテンツマネジメントシステム（CMS）

後半：

10. 図書館業務システム
11. 検索サービス（OPAC とディスカバリーサービス）
12. メタデータと全文検索
13. デジタルアーカイブ（IIIF）、機関リポジトリ、研究データプラットフォーム
14. 集中処理と分散処理、バックエンドとフロントエンド
15. 図書館ウェブサービスとハイブリッドアプリケーション
16. AI（機械学習、深層学習、生成 AI）と Web3（ブロックチェーン、メタバース）
17. 情報セキュリティとマネジメント
18. まとめと試験

教科書・参考書

（準教科書） 可能であれば購入・持参をお願いします。

- ・塩崎亮・今井福司・河島茂生 編著『図書館情報技術論[第2版]:図書館を駆動する情報装置（講座・図書館情報学 4）』（ミネルヴァ書房、2022）

（参考書） 購入・持参の必要はありません。以下は一部です。

- ・ブライアン・カーニハン『教養としてのコンピューターサイエンス講義』（日経 BP、2020）
- ・田窪直規 編、岡紀子・田中邦英 著『図書館と情報技術』（樹村房、2017）
- ・日本図書館情報学会研究委員会 編『メタデータとウェブサービス』（勉誠出版、2016）
- ・西村泰洋 著『図解まるわかり Web 技術のしくみ』（翔泳社、2021）
- ・斎藤昌義 著『【図解】コレ1枚でわかる最新 IT トレンド [増補改訂 4 版]』（技術評論社、2022）

アドバイス 図書館員は「情報のプロ」として見られますので、システムライブラリアンでなくても、IT スキルは必須となります。デジタルネイティブ時代にあっては「文系だから IT はわかりません」とは言われてられません。時々刻々と創出される学術情報やメディアコンテンツの中からユーザーが立てた問いやストーリーにマッチした情報を効率的に得るには最新の情報処理技術の習得が欠かせません。大学も教養+実学+文理融合の時代です。ざっくりでもよいので、情報処理技術の基本用語の意味や概念を把握しておきましょう。

講義概要・授業計画 図書館の財政や組織、分類や目録、選書や排架、リクエストやレファレンス、コンピュータシステムなど、様々な人的物的資源や業務は全て、利用者のニーズに対応するために存在しています。ニーズの内容は、利用者の自己実現や課題解決のためであったりリクリエーションであったりと非常に多様です。図書館の個々の要素がいくら優れていても、最終的に高度で良質なサービスが提供されなければ意味はありません。講習の各授業では、図書館業務や資料についてそれぞれの分野を別個に独立させて学習することになりますが、図書館の現場ではそれらの資源や業務などの諸要素は、複雑に絡み合っサービスや業務を構成しています。図書館における諸要素の有機的な関係が利用者、社会の変化と共にどのように変遷し、現在どのような状況にあり、またどのような理念、機能を生み出したかを理解しましょう。

1. 公共図書館の理念とサービス
2. 公共図書館のサービスの構造と図書館資源
3. 貸料提供と全域奉仕
4. 対象者別サービス
5. 「図書館利用に障害のある人」へのサービスと多文化サービス
6. 課題解決型サービス1 (ビジネス支援サービス)
7. 課題解決型サービス2 (医療健康情報サービス)
8. 課題解決型サービス3 (法律情報サービス)
9. 課題解決型サービス4 (行政支援サービス)
10. 媒体別サービスと集会事業
11. ハイブリッド型図書館のサービスと情報リテラシー支援
12. 公共図書館とボランティア
13. 公共図書館のサービスと著作権1(貸出、複写と著作権、映像貸料と著作権)
14. 公共図書館のサービスと著作権2(障害者へのサービスと著作権、デジタル情報提供と著作権)
15. 各種図書館とのネットワーク

参考書 ・菅谷明子 著『未来をつくる図書館』(岩波新書、2003) ・豊田恭子 著『闘う図書館ーアメリカのライブラリアンシップ』(筑摩書房、2022) ・ジョン・ポールフリー 著『ネット時代の図書館戦略』(原書房、2016)

アドバイス 居住地や勤務地などの図書館に実際に利用者登録をして、興味のない分野の書架についても目を通し、実際に自分自身の課題についてレファレンスの質問をしてください。図書館の対象は森羅万象全てです。世界のあらゆることについて興味をもつようにしてください。

情報サービス論

講義概要 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等について解説。

- 授業計画** 第01講 情報社会と図書館の情報サービス 第02講 図書館における情報サービスの種類
第03講 図書館における情報サービス理論的展開 第04講 レファレンスサービスの理論と実践
第05講 レファレンスサービスの実践 第06講 情報検索サービスの理論と方法
第07講 各種情報源の特質と利用法 (1) 第08講 各種情報源の特質と利用法 (2)
第09講 各種情報源の特質と利用法 (3) 第10講 各種情報源の評価と解説
第11講 各種情報源の組織化 第12講 発信型情報サービスの意義と方法
第13講 情報サービスに関わる知的財産基礎知識 第14講 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
第15講 試験

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第4版』(樹村房、2022)

参考書 竹之内禎 編著『情報サービス論ー第2版』(学文社、2024)

講義概要・授業計画 本講義では、公共図書館における児童サービス（乳幼児からヤングアダルトのための図書館サービス）について、その意義と役割を理解し、児童図書館員として必要な知識と技術を身につけることを目的とします。具体的には、乳幼児サービス、児童サービス、ヤングアダルトサービスの業務内容を理解した後、児童資料の知識を深め、子どもと本を結ぶ方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等）について学びます。

授業はこちらで用意したレジメに沿って進めます。参考書は、授業中に紹介します。

基本的に講義形式ですすめますが、ディスカッション、読み聞かせの実践等、実習形式の側面も持ちます。

アドバイス 子どもに読書の楽しみを伝えるために、受講者自身も読書に親しみ、読書の幅を広げてもらいたいと考えています。授業までに、少なくとも1冊、おすすめの児童書（絵本含む）を作り、紹介できるようにしておいてください。

情報サービス演習I

講師 いとう 伊藤 たみお 民雄 まつの 松野 なみえ 南紗恵

講義概要 本科目は、図書館サービスの中核である情報サービス（レファレンスサービス）を、主として参考図書やレファレンス質問を利用した演習によって理解し、実践的な技術を習得することを目標とします。扱う内容は、(1)情報サービスの設計、(2)レファレンスコレクションの整備、(3)レファレンスインタビューの技法と実際、(4)質問に対する検索と回答、(5)発信型情報サービスの実際、(6)情報サービスの評価、等となります。

授業計画[伊藤 民雄] 「情報サービス論」で習得した基礎知識を踏まえて、レファレンスインタビューや質問回答を処理していくために要求される基本的な知識と技能について講義と演習（参考図書の解題と評価、パスファインダー作成など）を行い、また受講生同士による課題の相互評価も行います。図書館サービスの中心であるレファレンスサービスについて、演習課題を解決しながら参考図書の使い方を学び、質問の受付から回答までのプロセスを学修することによりレファレンスサービスの実践的な技術を習得します。

[松野 南紗恵] 「情報サービス論」で習得した基礎知識をもとに、演習課題を通じてレファレンスブックの使い方やレファレンスインタビューについて学びます。また、発信型の情報サービスとしてパスファインダーの作成にも取り組み、実践的なスキルの習得を目指します。

参考書 特に指定しない。必要に応じて授業内で指示する。但し、授業内容は下記を参考にしている。

- ・中西裕、伊藤民雄、青野正太 共著『第3版 情報サービス論及び演習（ライブラリー図書館情報学 6）』（学文社、2023）
- ・宮沢厚雄 著『検索法キイノート』（樹村房、2018）
- ・山口真也、千錫烈、望月道浩 編著『情報サービス論』（ミネルヴァ書房、2018）

アドバイス[伊藤 民雄] レファレンスサービスはとにかく「習うより慣れよ」です。図書館の参考図書コーナーだけでなく、一般書架で調べ物に役に立ちそうな本を多く見ることをお勧めします。

[松野 南紗恵] 図書館にはどのような資料あるのか知っておくと、レファレンスサービスでとても役立ちます。ぜひお近くの図書館で書架をゆっくり眺め、気になる資料があれば手に取ってみてください。

講義概要 本科目は、図書館サービスの中核である情報サービス（情報検索）とその関連領域に関する知識と技術を、様々なデータベースを活用した情報検索演習を通じて理解し、実践的な検索技能を修得することを目標とします。

扱う内容は、(1)情報サービスの設計、(2)情報検索の技法と実際、(3)質問に対する検索と回答、(4)情報サービスの評価、等です。

授業計画[伊藤 民雄] 情報サービスは、参考図書を駆使した従来からの手法に加えて、デジタル化された情報源を使いこなす知識と技法が要求されています。本講義ではコンピュータを使って演習を行います。「情報サービス論」で習得した基礎知識を踏まえて、情報検索の基礎知識、図書内容情報、雑誌記事情報、人物略歴情報、地域情報、インターネットの無料情報源を使った情報検索を行います。

[松野 南紗恵] 「情報サービス論」で習得した基礎知識をもとに、インターネット上の情報源や各種データベースを使用して情報検索に関する演習課題に取り組みます。演習を通して、情報サービスに関する知識を深めるとともに、多様な情報源の中から求められる情報を的確に検索するための実践的なスキルの習得を目指します。

参考書 特に指定しない。必要に応じて授業内で指示する。但し、授業内容は下記を参考にしていく。

- ・中西裕、伊藤民雄、青野正太 共著『第3版 情報サービス論及び演習（ライブラリー図書館情報学 6）』（学文社、2023）
- ・宮沢厚雄 著『検索法キイノート』（樹村房、2018）
- ・山口真也、千錫烈、望月道浩 編著『情報サービス論』（ミネルヴァ書房、2018）

アドバイス[伊藤 民雄] 利用者からの質問内容を分析し、回答ツールとして電子メディアを選択したと想定するのが「情報検索演習」です。本科目では、電子メディアに回答ツールが制限されますが、現場では紙メディアを併用しながら回答してもよいのです。難しく考えず、気楽にいきましょう。

[松野 南紗恵] この科目では、さまざまな種類のデータベースを使用して情報検索に取り組みます。お近くの図書館ではどのようなデータベースが利用できるのか見ておくと、演習課題に取り組む際イメージしやすくなります。

情報資源概論

講師 坂本 俊

講義概要・授業計画 図書館において情報資源として扱われる資料全般に関して、その種類、特徴についての解説をおこないます。特に、印刷メディアと電子メディアの違いや、専門資料群として人文科学・社会科学・自然科学など各学問分野資料の種類と特徴について知識を深めていきます。また、出版物の生産・流通過程、資料選択の基準・管理について把握し、コレクション形成及び情報資源の収集と保存方法について理解していきます。1. 図書館情報資源の概要 2. 図書館情報資源の特徴と類型 3. 図書館資料の種類 (1) 印刷資料 4. 図書館資料の種類 (2) 図書 5. 図書館資料の種類 (3) 逐次刊行物・雑誌 6. 図書館資料の種類 (4) 行政資料・灰色文献 7. 参考図書の種類と特徴：百科事典・書誌・索引 8. 非印刷資料の種類と特徴 9. 電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特徴 10. 情報資源の出版・流通 11. 人文・社会分野の情報資源の種類と特徴 12. 科学技術分野の情報資源の種類と特徴 13. 図書館コレクションの形成 (1) 資料選択・資料収集 14. 図書館コレクションの形成 (2) 資料選択ツールの利用・評価 15. まとめと試験

教科書 馬場俊明 編著『図書館情報資源概論 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）（日本図書館協会、2018）

アドバイス 現在の図書館では図書や雑誌等の印刷メディアに加え、電子メディアなど様々な種類の情報資源が収集・提供されています。本科目を通して、これら情報資源の特性を十分に理解し、図書館サービスへと活用できるような知識・技術を身につけていきましょう。

講義概要・授業計画 世界のグローバル化、社会の情報化が急速に進展するなかで、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。図書館の業務やサービスの遂行にあたり、その基礎となる情報技術についての知識とそれを使いこなす技術の向上は不可欠な要素となっています。図書館資料ということで申しますと、これまでは印刷資料、非印刷資料、電子資料という分類がされてきました。現在では、こうした従来の図書館資料の形態に「ネットワーク上の情報資源」も加えて、これらすべてを包括する概念として「図書館情報資源」という言い方がされるようになりました。

本講義では、こうした図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を中心に、できる限り幅広い視点から具体的に解説いたします。

1 日目

- ・開講にあたって
- ・情報資源組織化の意義と理論
- ・書誌コントロールと標準化
- ・書誌記述法 (1)
- ・書誌記述法 (2)

2 日目

- ・主題分析の意義と考え方
- ・主題分析と索引法
- ・主題分析と分類法 (1)
- ・主題分析と分類法 (2)
- ・主題分析と分類法 (3)

3 日目

- ・書誌情報の作成・流通・提供
- ・ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
- ・多様な情報資源の組織化
- ・インターネットの進展と情報資源組織論の新しい潮流
- ・授業内テスト

教科書 教科書は、とくに指定のものはありません。授業前に講義資料をプリントして配布します。

参考書 主な参考書は、以下のとおりです。その他の参考書は、授業時にその都度紹介します。

- ・榎本裕希子・石井大輔・名城邦孝 著『情報資源組織論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3) (第2版) (学文社、2019年)
- ・那須雅熙・蟹瀬智弘 著『情報資源組織論及び演習』(ライブラリー図書館情報学 9) (第3版) (学文社、2020年)
- ・柴田正美 著『情報資源組織論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-9) (三訂版) (日本図書館協会、2020年)
- ・田窪直規 編著『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ 9) (三訂版) (樹村房、2020年)
- ・竹之内禎・山口洋・西田洋平 編著『情報資源組織論』(東海大学出版部、2020年)
- ・根本彰・岸田和明 編『情報資源の組織化と提供』(シリーズ図書館情報学 2) (東京大学出版会、2013年)

アドバイス 図書館はたくさんの資料を所蔵しています。これらが雑然と館内に置かれていたとしたら、どこにどんな資料があるのかわかりません。それを解消するために図書館で行われているのが「情報資源の組織化」です。その考え方の基本と応用について皆さんと一緒に学びたいと思います。

情報資源組織演習(記述)-Aクラス-

講義概要・授業計画 図書館で扱う情報資源は従来からある図書に加え、視聴覚資料やオンライン情報などその種類の範囲を広げています。また扱う量も膨大となっており、これらの情報資源を利用者に効率よく、かつ円滑に提供していく必要があります。本科目では、利用者が目的の資料をストレスなく検索し利活用できるよう、情報資源に関する情報を整理整頓した状態で蓄積していく方法について学びます。具体的には、『日本目録規則 (NCR)』を使用し、目録や標目の作成方法について、演習を通して実践的に学びます。また、目録情報をいかにデジタル化し、電子的にやりとりするかについても学習します。

教科書 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 三訂版』
(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) (日本図書館協会、2023)

ツール 日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987年版改訂3版』(日本図書館協会、2006)
※ツールはご用意します。

アドバイス 情報資源組織論で学んだ内容を習得していることを前提としますが、演習に必要な箇所は改めて説明しながら授業を進行しますので、どうぞご安心して受講ください。また、演習課題はクラスの状況に応じて進めていきます。焦る必要はないので、自分のペースで取り組んでいただければと思います。

講義概要・授業計画 情報資源と総称されるものは、図書・逐次刊行物などをはじめ多種多様であり、それは紙媒体であったり、ネット上に存在していたりと様々な様相を呈していて、それぞれに特性があります。この授業では、図書館で行われている、種別毎の、分類規則に沿った情報資源の目録作成法を習得するため、『日本目録規則 (NCR)』のひとつおりの概略の把握を目指し、今後 OJT の機会を得た場合は、そこで専門性を高めていけるように、そのための素地づくりを今ここで培っておくというイメージで、取り組んでみましょう。現在、既に図書館業務に就いている場合は、その専門性にアカデミックな裏付けを加味することで、より発展的なスキルを養えるよう、そして、携わっている領域以外についても視野を広げられるよう、取り組んでみましょう。

教科書 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 三訂版』
(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) (日本図書館協会、2023)

ツール 日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』(日本図書館協会、2006)
※ツールはご用意します。

アドバイス 情報資源が多い現代において、目指す 1 件を識別・同定するための必須アイテムを知ることにより、司書の専門性を発揮できる領域が広がります。学びの対象である目録規則 NCR は、あらゆる情報資源を網羅できるように、規則も重層的に展開していくため、その量の多さに驚くことと思いますが、まずは基本の規則に習熟することに力点を置きましょう。受講後には、きっと新たな地平に立っていることに気づく瞬間があるに違いありません。

情報資源組織演習(主題)

講師

いしい だいすけ
石井 大輔

講義概要・授業計画 演習を通じて主題組織の技術を習得します。とくに分類作業では、主題組織の理論の復習も兼ねて、分類規程や補助表など『日本十進分類法(新訂 10 版)』(NDC10)の使い方についてのひとつおりの解説を行った上で演習を行います。演習では、第一に主題を分析し、そして取り出された主題に対して NDC の詳細な分類記号に翻訳します。NDC は 2014 年 12 月に新訂 10 版となりました。このため、以前の NDC9 からの変更点についても解説します。また、分類作業とともに『基本件名標目表 (BSH)』による件名作業の関連についても解説します。以下については、大学から貸出があります。ご自身のものを使用しても構いません。

ツール 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂 10 版』(日本図書館協会、2014)
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第 4 版』(日本図書館協会、1999) ※ツールはご用意します。

アドバイス 情報資源組織論で得た知識や理論を各自で復習しておく、スムーズに演習に入ることができると思います。演習は集中力が必要で少し体力的にもたいへんですが、楽しみながら学びましょう。

講義概要・授業計画 世界のグローバル化、社会の情報化が急速に進展するなかで、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。図書館の業務やサービスにおいても、その基礎となる情報技術の知識や技術の向上が不可欠となっています。図書館資料ということでみますと、これまでは印刷資料、非印刷資料、電子資料という分類がされてきました。現在では、従来の図書館資料の形態に「ネットワーク上の情報資源」も加えて、これらを包括する概念として「図書館情報資源」という言い方がされるようになりました。この講義では、こうした図書館情報資源をどのように活用するのかについて学んでまいります。

講義では、まず、電子環境下における図書館情報資源のもつ意義と情報検索の理論についてお話しします。そのあと、インターネットで利用できる主なレファレンスツールの紹介をします。引き続いて、人文科学、社会科学、自然科学の各分野における図書館情報資源の特性、生産・流通の過程、アクセスと利用等について、実際例とともに見ていきます。全体を通して、単なる知識の断片的な紹介ではなく、図書館情報資源の背景にある構造を把握することに努めたいと思っています。各回の講義内容は、以下のとおりです。

第1回 電子環境下における図書館情報資源

第2回 情報検索の理論とインターネットで利用できるレファレンスツール

第3回・第4回 人文科学分野の図書館情報資源：人文科学における情報生産・流通、情報・資料の特性、文献探索法（図書、雑誌、新聞、電子資料など）

第4回・第5回 社会科学分野の図書館情報資源：社会科学における情報生産・流通、情報・資料の特性、文献探索法（法令・判例情報、政府・自治体関係情報、経済・企業・ビジネス情報、教育関係情報、統計情報・世論調査など）

第6回・第7回 自然科学分野の図書館情報資源：自然科学における情報生産・流通、情報・資料の特性、文献探索法（規格資料、テクニカルレポート、特許資料、会議資料、学位論文など）

第8回 授業内テスト

教科書 教科書は、とくに指定のものはありません。授業前に講義資料をプリントして配布します。

参考書 主な参考書は、以下のとおりです。その他の参考書は、授業時にその都度紹介します。

- ・原田智子 編著 『三訂 情報サービス演習』（樹村房、2021）
- ・長澤雅男・石黒祐子 共著 『レファレンスブックス 選びかた・使いかた（四訂版）』（日本図書館協会、2020）
- ・中西裕・伊藤民雄・青野正太 著 『情報サービス論及び演習（第3版）』（学文社、2023）

アドバイス 講義では、さまざまなサイトを紹介しますが、実際にご自身でもやってみただけると身に付くと思います。講義で聞いているときは簡単に見えても、自分で実践してみると思わぬところで躓きかねません。日頃から情報検索に親しむことが、上達の秘訣だと思います。

講義概要 文字と様々な記録媒体の発明を経て、活版印刷と紙・パルプの発明と進化は情報を記録し伝搬し保存する技術の結晶として“図書”を生み出し、図書館は、利用者の読書行為を通じて、知識と情報を人類共有の集積と流布のための中核的機能となり、長い間、人類社会の飛躍的な発展に貢献してきた。然るところ、20世紀後半に生み出された電子技術はそのような図書及び図書館のあり様を一変させた。印刷物として出版される”図書“さえも電子技術の中で生産される。電子技術による情報の記録と読書行為は、人々のコミュニケーションの在り方をも大きく変貌させている。人々は日常生活のあらゆる場で、記録媒体の如何を問わず読書行為を行うようになった。場としての図書館は、今後どのように変貌していくのか。図書と図書館の歴史を理解することによって、図書館の機能が、人類社会と文化の発展にどのような意味を持ってきたかについて学ぶ。

授業計画

- 1回 オリエンテーション：紙以前の図書及び記録媒体
- 2回 古代：メソポタミア文明と図書館、アレキサンドリア図書館
- 3回 中世：修道院図書館、中世都市の発生と大学・大学図書館の誕生、知識・情報の価値化
- 4回 近世初期：紙と印刷術のヨーロッパへの伝搬、ゲーテンベルクの活版印刷
- 5回 近世中期：印刷術の普及とルターの宗教改革、出版物の変化と読書の変化
- 6回 近世後期：啓蒙主義と図書の変化、図書館学の萌芽
- 7回 近代1：近代市民革命と図書館、イギリス産業革命とフランス革命に見る図書館
- 8回 近代2：アメリカ独立戦争と近代公共図書館の誕生、そして現代の図書館

教科書

- ・寺田光孝ほか 著『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ12）（樹村房、1999）
 - ・今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第5版』（樹村房、2024）
- 参考書は授業の中で紹介します。

アドバイス 図書館はいつの時代でも社会のあり様と無縁ではられません。ライブラリアンを志す者は、常に社会のことに関心を持ちましょう。そして、たくさんの小説を読みましょう。そうすれば、図書館で仕事をするこの意味と意義が見えてきます。